

おお大勝利

令和2年度 山東サッカー部報第7号 (9月10日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

Y2初戦鶴工戦 ヒヤヒヤの辛勝

8月30日(日)いよいよ県リーグ開幕！ 今年、全国リーグであるプレミアリーグ（東西）が中止となり、ブロックリーグであるプリンスリーグが（ブロック内のプレミアリーグ参加チームを混ぜる）変則的な形で8月後半から開幕。県リーグも同じタイミングで開幕。ただし、今年はすべての日程を消化することはできず、1回総当たりもできない¹。とすれば、当然、昇格も降格もない。**ただの消化試合と言えはその通りですが、高体連所属校からすれば、最も大切な大会である「選手権」への強化・準備の公式戦として、やはり練習試合とは異なる重みがある。**

県リーグ2部（Y2A）に所属する山東の初戦の相手は、鶴岡工業。以前Y1で凌ぎを削っていた頃が懐かしいな～。長年チーム作りをしていると思うのですが、チーム作りには好循環もあれば悪循環もある。好循環が出来上がっていた頃は、①「チーム内の競争が激しい」「練習からレベルが高い」⇒②「後輩もそのように育つ」という好循環で、指導者云々の問題ではなく、良いチーム作りができる。指導者も、後輩に対して「上の代からの伝統が薄れてきてるぞ」とか「あの先輩が1年の頃はこのくらいできたぞ」など、選手の目線を上げる声掛けしやすい。逆に、悪い流れも後輩に受け継がれてしまう。こういう時に指導力が問われるのでしょうか（または、好循環が切れかけたときに持続させる際に）。難しいものです。特に公立高校は、学校再編で定員が減り、部員の減少という問題に直面したりする。山東は、私が来てからは1学年240名のままで減っておらず、言い訳はできませんが、厳しい現実には直面している公立高校が多いように感じる。体育科のある山形中央も今年から1クラス減。ボディブローのように徐々に効いてくると思われる。

県リーグは、県内各地で行われるため、適切なコロナ予防策を取れないだろう。そんな判断から、無観客で行われた。とはいえ、観ようと思えば観られないことはない。会場は人工芝の山形明正ですが、例えば敷地外の東側の道路から（ヒルズサンピア側から）観るなどされれば、さすがに「立ち去って下さい」とは言えない。熱心な応援をして下さる山形東の保護者の皆様、ブラッと東側に並ぶのかな、などと予想していた。しかし！ **さすが、品行方正な山形東の保護者の皆様。運営サイドを出し抜こうなどとせず、ほぼ誰も観戦していない。**そんな中だが、チームスタッフである**清野総監督**と**後藤報道局長**がお越しになるのは、全く問題ない。今年の県リーグは、昇格も降格もかからない試合ということで、当該チームでの審判が許されている。ということで、前半は私が主審をすることに。**3年生は体育系進学を考えているユッキーとヒラマサのみ残っており、この二人をFWにして、得点を期待する。**

試合が開始されると、どっちもどっちの立ち上がり。徐々に山東のボール保持が長くなるもの

¹ 8月末からの当初の日程を消化するだけ。山東の所属するY2Aは、8月30日の試合は第12節でした。ということは、8チーム2回総当たりなので、全14節のうちの12節から県リーグ開幕、そして、3節のみ消化、ということになる。

の、鶴工のアタッカーにも攻撃のキレ味があり、どっちがネットを揺らしてもおかしくない。そんなオープンな試合展開の最中、**3年FW ユッキー**が少しジャンプして胸トラップをしようとした際に遅れて相手が背後からヘディングで当たってきて、ユッキーが前方に大きく転ぶ。私、練習試合等でも、自チームの笛を吹く場合、たいてい自チームに不利に判定するのですが、さすがにこれは明らかなファウル。とはいえ、吹いちゃったら PK になるので、ためらう気持ちは若干ありましたが、笛を吹いて山東に PK を与える。しかし、この PK をユッキーが外す。その直後、鶴工の攻撃。山東ゴールライン付近で接近戦を繰り広げる。ボールがラインを割り、両チーム選手がそれぞれゴールキックかコーナーキックかのアピールをする。至近距離で観ていたわけでもなく、よくわからないので、とりあえず鶴工ボール(コーナーキック)と判定。すると、**そのCKを、相手選手へのマークを課さずゾーンで配置した山東の選手がクリアミスし、そのままOWNゴールOGとなる。**ニアサイドのゾーンの選手のところでヘディングで跳ね返したかったが、中央のゾーンの選手(OGした選手)は頭を越してくることを前提に準備しなければならないので、「いきなり来て準備できなかった」という言い訳はできない。しかも、山東ゴールを背にして右からのCKに対して、左足アウトでクリアしようとするかね(で、結局インサイドに当たりゴール方向へ飛ぶ)。仕方のないアンラッキーなOGも中にはありますが、これはかなりくだらないOG。ため息が出る。その後、**縦パスにヒラマサが抜け出して良い形でシュート**するシーンなど、山東の絶好機もありましたが、ことごとく逸機。ビハインドで前半を終えるかと思われた前半37分、これもCKからの展開だったか忘れましたが、とにかく相手ゴール前でゴチャゴチャしているところを**2年主将テグチッチ**が体で押し込み、同点にして、前半終了。

後半は、暑かったせいもあり、鶴工の足が止まり始める。体力に自信のあるチームではない山東、今年初の90分ゲームで不安の中スタートしたのですが、**少なくともこの日は相手より走っていた。**インサイドからアウトサイドから、**攻めに攻めたり、後半だけでシュート24本!** しかも、「あとは決めるだけ」という簡単なシュートも複数あった。なかには無人のゴールに流し込むだけ、というシュートもありました。しかし、シュートは一向に決まらない。そうしていると、時折発動される鶴工の鋭いカウンターに、DFがバタついて良い対処ができず。というか、あんなにも準備の時間があるのに、後ろ3枚がチャレンジせず(前に入りパスインターセプトを狙わず)相手ワントップを簡単にフリーにして前向かせるものだから、その選手のスピードと、駆け上がりフォローする選手との関係プレーに、バーを叩くシュートを浴びる、または、**2年GKコーセー**のファインセーブに助けられるなど、**負けの可能性も十分あった。**ずっと山東陣地に一人でいて、たまにボールが来ると思ったら、本当にヤバい攻撃を受けるコーセー、たまったもんじゃない。後半の後半はずっと、「ホントいい加減にして。早く決めて。」とぼやき続ける。しかし、誰のシュートも決まらない。「これは無得点で引き分けだな」と誰もが観念した後半44分、左からのセンターリングがこぼれたところを、またしても「**われらが主将**」**2年テグチッチ**が決めて、やっとのことで勝ち越し。そして、そのまま2対1で山東の勝利となる。

勝つには勝って、ホッと胸を撫で下ろしましたが、後半だけで24本も打ってたった1得点。しかも、それくらい猛攻しかけたのに、相手に決定機を与える。**こういうスキの多いチームは、トーナメントでは勝てません。**反省点満載の県リーグ初戦でした。さて、地区新人が始まります。県新人の切符を得るには、途中負けが入ってもとにかく2回勝たなくてはならない。そして、初戦東海大山形に負けると、その時点で県新人行きの可能性が断たれる。力がないと、発想がくじ運頼みになりますが、今年は特に厳しいですね。応援よろしくお願い致します。

9月12日(土) 地区新人戦 初戦 東海大山形戦 10:00キックオフ @山形市球技場
それに勝つと、同日2回戦 山形中央戦 14:30キックオフ @同上